

2020年3月19日

各位

会社名 株式会社ゼネテック
代表者名 代表取締役社長 上野 憲二
(コード番号: 4492 東証JASDAQ)
問合せ先 取締役 金井 登志雄
(TEL 03-6683-3244)

東京証券取引所JASDAQへの上場に伴う当社決算情報のお知らせ

当社は、本日、2020年3月19日に、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）における当社の業績予想は、以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【連結】

(単位: 百万円、%)

項目	決算期	2020年3月期 (予想)		2020年3月期 第3四半期累計期間 (実績)		2019年3月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率			
売上高		4,840	100.0	8.0	3,385	100.0	4,482	100.0
営業利益		310	6.4	19.4	152	4.5	259	5.8
経常利益		295	6.1	6.9	153	4.5	275	6.2
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益		190	3.9	5.8	100	3.0	179	4.0
1株当たり当期 (四半期)純利益		126円24銭		67円17銭		120円16銭		
1株当たり配当金		3円50銭		—		3,500円00銭 (3円50銭)		

- (注) 1. 当社は、2019年12月27日付で、普通株式1株につき1,000株の株式分割を行っておりますが、2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出してしております。また、2019年3月期の1株当たり配当金については、当該株式分割を考慮した数値として()内に記載しております。
2. 2019年3月期(実績)及び2020年3月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は、期中平均発行済株式数により算出してしております。
3. 2020年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は、予定期中平均発行済株式数により算出してしております。

【2020年3月期業績予想の前提条件】

1. 当社グループの見通し

当社グループ（当社及び連結子会社）は、当社（株式会社ゼネテック）、子会社1社により構成されており、システム受託開発事業、エンジニアリングソリューション事業を主たる事業としております。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢、個人消費に改善の動きが見られ、景気は緩やかな回復が続きましたが、米国の政策運営や世界的な保護主義の台頭による先行き不透明感により、海外経済は不確実性が高まっております。

このような状況下、当社グループはスローガン「新たなるステージへ」の下、さらなる成長と企業価値の向上に向けた諸施策を推進しております。

2020年3月期の業績予想は、オートモーティブ分野を中心に伸びたシステム受託開発事業および3次元CAD/CAMシステム「Mastercam」の販売・サポートが伸びたエンジニアリングソリューション事業が堅調に推移する見通しで、売上高は4,840百万円（前期比8.0%増）、営業利益は310百万円（前期比19.4%増）、経常利益は295百万円（前期比6.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は190百万円（前期比5.8%増）となる見込みです。

なお、当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高3,385百万円（進捗率69.9%）、営業利益152百万円（進捗率49.2%）、経常利益153百万円（進捗率51.9%）、親会社株主に帰属する四半期純利益100百万円（進捗率52.8%）となっております。

本稿記載の2020年3月期の業績見通しは、2020年3月期第3四半期累計期間の実績値等を基にして期初計画値を修正したものであり、2020年2月13日に開催した定時取締役会において承認しております。

2. 業績予想の前提条件

(1) 売上高

当社グループは2つの事業とも1年間の予算を受注残だけでカバーすることはできないため、景気動向を考慮したうえで、システム受託開発事業については、顧客の開発・投資動向を顧客との打合せなどから可能な範囲で入手の上、もし顧客からの引き合いに見合う開発人員を確保できない場合は、確保できる開発人員で対応可能な引き合いのみを見通しとして作成しております。また、エンジニアリングソリューション事業においては、ソフトウェアライセンスの新規購入・増設は販売代理店を通じたエンドユーザーの引き合い状況を勘案し、また、それらライセンスに係る年間メンテナンスの更新については、過去5期間の実績更新率を勘案して見通しを作成しております。

当第3四半期連結累計期間の売上高については、概ね当初予算通りの実績推移でありました。

システム受託開発事業においては、半導体製造装置向けの量産品ハードウェア開発が、第4四半期連結会計期間より回復する見通しであるものの、第3四半期連結累計期間においては、米中貿易摩擦等の影響を受け、エンドユーザー企業からの発注遅れが生じて減少しましたが、CASE（Connected つながる車、Autonomous 自動運転、Shared & Service シェアリングサービス、Electric 電動化）と呼ばれる領域が進展していることから、得意とするオートモーティブ分野のソフトウェア開発が大きく伸長し、その他、デジタル家電分野や電力関連分野、防衛関連分野なども堅調に推移し、量産品ハードウェア開発の減少部分をカバーしております。これらの結果、2020年3月期のシステム受託開発事業の売上高は前期比6.6%増の3,457百万円を見込んでおります。

エンジニアリングソリューション事業は、主力商材である3次元CAD/CAMソフトウェア「Mastercam」を中心とするライセンス販売、メンテナンス、サポートやトレーニングなどの関連サービスも好調な景況感を反映してバランスよく伸びました。また、前連結会計年度から導入準備を始めた工場・物流・マテハン3Dシミュレーションソフトウェア「FlexSim」につきましても、少しずつ実績が上がり始めております。これらの結果、2020年3月期のエンジニアリングソリューション事業の売上高は前期比11.0%増の1,342百万円を見込んでおります。

以上より、2020年3月期の売上高は前期比8.0%増の4,840百万円を見込んでおります。

(2) 売上原価、売上総利益

当社グループのシステム受託開発事業の売上原価においては労務費および外注費が大きな比重を占めております。売上高の予算策定で使用した人員計画に従って労務費および外注費を見積り、その他は用途毎・科目毎に見積っております。

また、エンジニアリングソリューション事業につきましては、商品・サービスの売上高予算に前年度の粗利率をかけ合わせて商品仕入額を見積っております。

以上より、売上原価は前期比 6.3%増の 3,160 百万円、売上総利益は前期比 10.6%増の 1,670 百万円を見込んでおります。

(3) 販売費および一般管理費、営業利益

当社グループの販売費及び一般管理費においては販売・管理部門の人員費が比較的大きな比重を占めており、販売・管理部門の人員計画に従った人員費を見積っております。

2020年3月期通期の見込みに関しましては、上場企業としてのさらなる組織強化や営業力強化のための人員増により、人員費は770百万円と前期比75百万円増加する見込みであり、関連する採用費、研修教育費を含め、前期比88百万円増加する見込みであります。

その他費用については、用途別・科目別にその他を見積っており、IR関連ツールの導入や上場告知広告などの上場関連の費用6百万円を計画した結果、販売費及び一般管理費は1,360百万円（前期比8.8%増）を、営業利益は310百万円（前期比19.4%増）を見込んでおります。

(4) 営業外収益・費用、経常利益

営業外収益については、当期において収益発生が見込まれるものを計上しており、主に人材開発支援等の助成金収入9百万円を見込んでおります。

また営業外費用についても、当期においても費用発生が見込まれるものを計上しており、主に上場関連費用19百万円を見込んでおります。

以上より、営業外収益は前期比63.1%減の10百万円、営業外費用は前期比130.8%増の25百万円、経常利益は前期比6.9%増の295百万円を見込んでおります。

(5) 特別利益・損失、親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益におきましては、特段見込んでいる事項はありません。

以上より、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比5.8%増の190百万円となる見込みであります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。

以上

2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ゼネテック

コード番号 4492 URL <https://www.genetec.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上野 憲二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 金井 登志雄 TEL 03 (6683) 3244

四半期報告書提出予定日 2020年2月13日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	3,385	—	152	—	153	—	100	—
2019年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 100百万円 (—%) 2019年3月期第3四半期 ー百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	67.17	—
2019年3月期第3四半期	—	—

- (注) 1. 当社は2019年3月期第3四半期においては四半期連結財務諸表を作成していないため、2019年3月期第3四半期の数値及び2020年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
 3. 当社は、2019年12月27日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	2,032	1,038	51.1
2019年3月期	2,217	943	42.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 1,038百万円 2019年3月期 943百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	—	—	3,500.00	3,500.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	3.50	3.50

- (注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 当社は、2019年12月27日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。2019年3月期については、当該株式分割前の実績の配当金の額を記載しております。

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,840	8.0	310	19.4	295	6.9	190	5.8	126.24

- (注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
 当社は、2019年12月27日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益につきましては、この株式分割を考慮した額を記載しております。また、公募による自己株式の処分数(312,000株)を含めた予定期中平均株式数により1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	1,920,000株	2019年3月期	1,920,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	426,000株	2019年3月期	426,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	1,494,000株	2019年3月期3Q	1,494,000株

当社は、2019年12月27日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した株式数を記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益は足踏み感があるものの高水準を維持しており設備投資マインドは回復基調にあり、雇用・所得環境の改善傾向が続く中、米中貿易摩擦と海外景気の行方の不透明さなど下振れ要因が残り、景気は横ばいで推移していくものと思われます。このような状況下、当社グループはスローガン「新たなステージへ」の下、さらなる成長と企業価値の向上に向けた諸施策を推進しております。

当第3四半期連結累計期間の売上高につきましては、前連結会計年度に引き続き、オートモーティブ分野を中心としたシステム受託開発事業および3次元CAD/CAMシステム「Mastercam」の販売・サポートを中心としたエンジニアソリューション事業が堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高3,385百万円、営業利益152百万円、経常利益153百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益100百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。なお、各セグメントの売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含めております。

〔システム受託開発事業〕

当第3四半期連結累計期間の売上高は2,374百万円、セグメント利益は383百万円となりました。売上高については、組込みシステム受託開発のうち、オートモーティブ分野を中心に推移いたしました。その他、デジタル家電分野や電力関連分野、防衛関連分野などが堅調に推移いたしました。一方、半導体製造装置向けの量産品ハードウェア開発については、エンドユーザー企業からの発注遅れの影響で落ち込みました。

〔エンジニアリングソリューション事業〕

当第3四半期連結累計期間の売上高は968百万円、セグメント利益は182百万円となりました。3次元CAD/CAMソフトウェア「Mastercam」につきましては、ライセンスの販売だけではなく、メンテナンスやサポート、トレーニングなどの関連サービスもバランスよく伸びました。その他のソリューションソフトウェアにつきましても堅調に推移しております。前連結会計年度から導入準備を始めた「FlexSim」につきましては、少しずつ実績が上がり始めております。

〔その他事業〕

当第3四半期連結累計期間の売上高は57百万円、セグメント損失は11百万円となりました。災害発生時位置情報通知システム「コゴダヨ」は、2016年12月に有料版をリリース、2017年4月に大手損害保険会社の保険加入者向けOEMサービスの提供を開始しております。また、2018年9月より開始した株式会社NTTドコモのプロモーション施策が好調に推移しており、2019年8月からKDDI株式会社における同様のプロモーションも開始し好調に推移しております。大地震や火山噴火等の自然災害発生時の通信が困難な状況であっても、家族など大切な人の居場所がわかる事が最大の特徴であり、引き続き収益化に向けた事業展開を推進してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,597百万円となり、前連結会計年度末に比べて148百万円減少いたしました。これは主に第4四半期検収予定の組込みハードウェア開発に係る仕掛品が増加したことにより仕掛品が84百万円増加した一方、現金及び預金が96百万円、未収入金が74百万円、受取手形及び売掛金が58百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定資産は434百万円となり、前連結会計年度末に比べて36百万円減少いたしました。これは主に投資その他の資産のその他のうち、繰延税金資産が33百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は2,032百万円となり、前連結会計年度末に比べて185百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は611百万円となり、前連結会計年度末に比べて243百万円減少いたしました。これは主に買掛金が116百万円、前年度確定納付により未払法人税等が66百万円、夏季賞与の支給に伴い賞与引当金が61百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は382百万円となり、前連結会計年度末に比べて37百万円減少いたしました。これは主に社債及び長期借入金の償還及び返済による減少によるものであります。

この結果、負債合計は993百万円となり、前連結会計年度末に比べて281百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,038百万円となり、前連結会計年度末に比べ95百万円増加いたしました。これは主に当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益100百万円による利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、本日開示いたしました「東京証券取引所JASDAQへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。連結業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	675,089	578,589
受取手形及び売掛金	740,950	682,764
商品及び製品	9,823	4,492
仕掛品	45,893	130,501
原材料及び貯蔵品	9,713	11,106
未収入金	225,077	150,597
その他	39,650	39,388
流動資産合計	1,746,197	1,597,440
固定資産		
有形固定資産	85,379	79,615
無形固定資産	13,579	10,080
投資その他の資産		
その他	373,610	345,993
貸倒引当金	△890	△890
投資その他の資産合計	372,720	345,103
固定資産合計	471,679	434,799
資産合計	2,217,877	2,032,240
負債の部		
流動負債		
買掛金	351,242	234,552
短期借入金	30,000	30,000
1年内償還予定の社債	56,250	50,000
1年内返済予定の長期借入金	22,917	14,596
未払金	126,696	122,942
未払法人税等	66,308	200
賞与引当金	146,795	85,005
その他	54,708	73,888
流動負債合計	854,918	611,185
固定負債		
社債	125,000	85,000
長期借入金	10,243	—
退職給付に係る負債	284,682	297,578
固定負債合計	419,925	382,578
負債合計	1,274,844	993,764

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
利益剰余金	936,562	1,031,686
自己株式	△42,395	△42,395
株主資本合計	944,166	1,039,290
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,133	△814
その他の包括利益累計額合計	△1,133	△814
純資産合計	943,033	1,038,476
負債純資産合計	2,217,877	2,032,240

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	3,385,305
売上原価	2,278,270
売上総利益	1,107,034
販売費及び一般管理費	954,611
営業利益	152,422
営業外収益	
受取利息	129
受取配当金	204
助成金収入	7,616
その他	2,011
営業外収益合計	9,961
営業外費用	
支払利息	1,601
株式公開費用	6,500
その他	1,167
営業外費用合計	9,269
経常利益	153,115
税金等調整前四半期純利益	153,115
法人税、住民税及び事業税	19,072
法人税等調整額	33,689
法人税等合計	52,762
四半期純利益	100,353
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	100,353

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	100,353
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	319
その他の包括利益合計	319
四半期包括利益	100,672
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	100,672
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	システム受託開 発事業	エンジニアリン グソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,359,935	967,526	3,327,462	57,842	3,385,305
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14,281	588	14,870	—	14,870
計	2,374,216	968,115	3,342,332	57,842	3,400,175
セグメント利益又は損失(△)	383,007	182,123	565,130	△11,653	553,476

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、災害発生時位置情報通知システム「ココダヨ」に係る研究開発を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	565,130
「その他」の区分の利益	△11,653
全社費用(注)	△401,054
四半期連結損益計算書の営業利益	152,422

(注) 全社費用は、報告セグメントに配賦できない営業費用であり、その主なものは本社管理部門に係る費用であります。